

令和2年度 修文女子高等学校 学校評価

【教育目標】

知的で、明るく、たくましく、共感力をそなえ、国家、社会に貢献できる人間力を養う。

【グランドデザイン】

【目標領域1】 文武両道・全人教育(人間力の育成)

- 1 人間力育成のために学院訓「推譲・明朗・強健」の具現化を図る
- 2 男女共学化・新学習指導要領実施に伴い、多様な生徒に対応できる指導体制を構築する
- 3 多様な進路実現を達成するための学力の保証と進路指導を充実する
- 4 心の教育を推進し、共感力・自立心やたくましい精神力を養う
- 5 学校を取り巻く社会の変化に対応できる資質・能力を育てる

【目標領域2】 教育は人なり(教師力の向上)

- 1 予習・授業・復習のサイクルを明確にした「修文メソッド(カリキュラムポリシー)」を各教科で確立し、徹底させる
- 2 教員の授業力向上

【目標領域3】

- 1 地域社会に貢献し、地域の教育力を活用する
- 2 高大連携の充実

【目指す学校像】

地域に信頼される学校(地域連携・高大連携の充実)

【今年度の重点目標】

- 1 社会人となるための基本を身につけさせる
- 2 学習に対する意欲を喚起し、学力を向上させる —学力の保証—
- 3 心の教育の充実・自立心を育てる —心の学校—
- 4 防災教育を推進する ～安心・安全な学校～
- 5 地域の期待にこたえ、信頼される学校をつくる —開かれた学校—

※達成度は4段階評価

- 4:大変よくできた。
- 3:まあまあできた。
- 2:あまりできなかった。
- 1:全くできなかった。

項目	重点目標	具体的方策	留意事項	中間評価	最終評価	達成度	次年度への課題及び行動目標
普通科	基礎学力の定着	・朝の反復学習における国英数、時事に関する学び ・家庭学習の充実に向けた継続的な仕掛け	・朝の反復学習では、国語や英語の簡単なワークや計算問題への取り組み、新聞のコラムについての学習などを実施し、基礎学力の養成を図るとともに、基本的な学習習慣の形成へもつなげていく。	1・2年生については、学習に向かう姿勢が少しずつできてきている。家庭学習の習慣のさらなる定着に向けて、その内容の充実にまで踏み込んで指導・支援のあり方を模索していきたい。	朝の時間を静かに学習に使い、一日のはじめに「学びのかまえ」を意識させることはできている。	3	各教科の学習内容との関連を意識し、内容のさらなる充実に向けて取り組んでいきたい。
	応用力の養成	・習熟度別クラス編成による授業の実施(国数英) ・学力や進路希望に応じた補習の実施	・それぞれの学力に応じた適切な指導を行うとともに、よりレベルの高い授業、補習を実施することで、生徒の(客観的に計測できる)学力を引き上げる。	3年生の進学補習については、授業や模試と連動させながら、内容の見直し、ブラッシュアップを常に意識して実施することができている。今後ともこれらの姿勢を継続していきたい。	習熟度別授業などを有効に活用したこと、生徒たちの頑張りによって、進学実績としてはまずまずの結果が出たように思う。	3	大学入学共通テストの結果はまだ満足のできるものではない。すべての教科が一丸となって学力の向上に臨む必要がある。
	視野の拡大	・進路行事の実施時における振り返りの徹底 ・CPタイムの積極的な活用	・自身の適性や進路希望について、年間を通じて絶えず思考を深めさせる。 ・自分の生活を自律的に振り返ることで、自分にできることを増やしていく。	コロナ禍で、学年や学科ごとの進路行事がほほないなかではあるが、教員間の連携をとりながら、生徒に自身の進路について考えさせる機会を設けている。	進学行事が多くなかった今年度は、特に生徒たちへの「意図的な進路指導」が難しかったが、その中にもあっても、HR担任の先生方が工夫して指導を行ってくれた。	2	進路指導、とりわけ進学指導の「系統性」を担保し、早いうちから様々なしなかけを施していけるよう、研究を進めたい。
	可能性の追求	・模試の積極的受験の奨励と対策の実施	・自らの能力を過大評価、過小評価することなく、目的に向かって一心に学習に取り組む姿勢を育む。	今後、2年生も進研模試や全統模試の受験を進路課と協力して実施しながら、生徒の実力の見極めと、その伸長に向けてのアプローチを行っていきたい。	模擬試験の実施については、感染症の拡大が叫ばれる中ではあったが、進路課の先生方の力で、無事実施できた。	3	今年度の結果を受けて、来年度の結果をその差異として把握することで、進学指導の精度を高めていきたい。
情報会計科	積極的な資格取得と納得のいく進路実現	・夏季補習、検定直前補習、朝補習、緻密な進路指導	・3年間の検定取得へ組織的に取り組み、日本商工会議所主催の検定合格を目指す。 ・進学希望者には、資格を活用した入試方式の紹介、および指導を充実する。 ・就職希望者には、面接や筆記対策において細やかに指導を行ない、厳しい状況を乗り切る。	授業や補習に、ただ参加するだけではなく、目的意識をもって意欲的に取り組んでいる。就職試験で苦戦している。満足いく進路実現となるよう今後も指導を継続していく。	技術顕彰3年生全員受領が今年度は達成できなかった。 就職については、前半苦戦したが結果的に年内に全員内定を頂くことができた。 進学については、初めて愛知大学に進学者を出せたことは大きな成果だと考えている。	2	次年度は技術顕彰3年生全員受領を再び達成したい。 就職については、全員第一志望の企業で内定が頂けるよう指導していきたい。 進学については愛知大学、あるいは愛大相当の大学への進学を継続させたい。
	ビジネスの諸活動で即戦力となる人材の育成	・始業前着席、授業準備の徹底 ・報連相の徹底	・挨拶や始業前着席、授業準備の徹底を通して、計画的に物事を進める能力を身につけさせる。 ・報連相を徹底することで、コミュニケーション能力の伸長を図ることへつなげる。	挨拶や始業前着席、授業準備などしっかりやれており、計画的に物事を進めることが身についてきている。生徒・保護者・教員相互に連携がとれており、報連相が徹底されている。順調にコミュニケーションがとれている。	各クラスとも、授業・補習に対して、さらに進路についても前向きな姿勢がみられる。生徒・保護者・教員、相互に連携がとれており、しっかり信頼関係ができていると感じられる。	3	新1年生と、その家庭との関係も含めて、現在の学科の良い雰囲気や次年度も継続させたい。
家政科	専門教科の技術を身につけ資格取得をめざす	・検定補習の実施 ・徹底反復学習に検定問題を実施	・家政科生徒としての自覚を持たせ、被服、食物、保育の技術と知識を身につけさせる。	家庭科検定取得に向けての意識づけができ、補習が必要な生徒には、授業後などに実施することができた。	コロナ禍で実習の時間や様々な制限がある中、被服検定2級では和裁9名、洋裁4名の受験者全員が合格することができた。	3	基礎力を確実に身に付け、さらなる知識力、技術力の向上を図っていきたい。
	自ら考え行動する力を身につける	・何事にも目標を立てさせる ・外部のイベントへ積極的に参加	・基礎学力を身につけさせ、計画的に物事を進められるようにする。 ・個人面談を定期的実施し、生徒の実態を把握する。	定期的個人面談を実施し、内容に応じて保護者と連絡を取ることができている。コロナ禍で行事の中止が多い中で「おもてなしモーニングcafé」にて提供するエコパックのデザイン会議に参加することができた。	コロナ禍において、様々な行事が簡素化や中止される中、できる範囲で地域と連携し、参加することができた。	2	生徒が主体的に取り組めるような企画を検討したい。また、地元企業との関係をより一層強固なものにしていきたい。
食物調理科	調理技術と知識の習得	・調理師としての自覚の涵養	・個人面談を定期的実施し、一人ひとりの特性の把握に努め、調理師としての自覚を育てる。	個人面談を定期的実施し、生徒の些細な変化を見逃さない努力ができている。また、保護者との連携も密にすることでより一層きめ細かい学習指導や進路指導ができていく。	コロナ禍において、改めて学校生活と同じように家庭生活も重要であることを教職員と保護者が共有し、生徒の成長を見守ることができたが、今年は十分であったとは言え切れない。	3	より一層、生徒の変化を見逃さない指導を継続したい。次年度は新しい生活形式に適合した指導方法を積極的に導入したい。
	地域に根づく学科	・地域活性化事業への参加 ・地元企業との商品共同開発	・一宮市にちなんだメニューを考案する。継続的に商品化できるように地元企業に働きかける。 ・地域の方々と接することで、コミュニケーション能力を育てる。	「おもてなしモーニングcafé」、「夢が詰まった初夢おせち#アオハル」といった地域の食材を使ったイベントに参画している。今年度は地元企業の絶大なバックアップで「いちのみや野菜プロジェクト」とのコラボレーション企画にも参画できた。	コロナ禍の影響を大きく受け、例年と比較すると大きな功績を残すことはできなかった。それでも、地元の方々の支援で新しい取り組みに参画できたことは感謝の気持ちでしかない。	2	新しい企画を立案し、既存の企画におけるスパイラルアップができるように、日頃の教育内容の拡充をより一層深める。また、特別講座を開催し、調理師としての自覚を涵養していきたい。

項目	重点目標	具体的方策	留意事項	中間評価	最終評価	達成度	次年度への課題及び行動目標
総務課	防災に対する取り組みの推進	・防災教育の推進	・危機を予防するために、安全点検、防災訓練、教員研修を実施し、安全に行動できる知識や能力を育成する。	1年生対象の外部講師による防災講話を実施した。知識は伝えることができたが、行動できるか不安である。また、全校生徒対象の防災訓練はシェイクアウトまで実施し、避難はせず放送にて地震への備えの話をした。	地震等被害や備えについての知識は知ることができたが、実際に避難をすることで、不測の事態に行動できるか不安である。	3	避難訓練は避難経路等を知るために、年度初めに実施したい。
	PTAや同窓会との連携の推進	・PTA活動の主体的な取り組みへの支援 ・同窓会などの情報発信	・メール配信システムやホームページを通して取り組みを紹介し、協力連携を図る。	コロナ禍のため、PTA活動や同窓会活動がほとんど実施できなかった。	PTA役員とPTA評議員会を実施した。本校の教育内容を説明し、理解して頂いた。同窓会活動は高齢の方が多いため実施できなかった。	2	楽しみにされているPTA、同窓会の研修旅行等も実施したい。
教務課	生徒の学力向上	・基礎学力の定着と応用力の養成	・学習コンクールで60点以上、基礎力診断テストでD2以上を目指し、入試に対応できる運用能力を身につけさせる。	土曜日補充やClassiを活用した補充を実施することや、基礎学力定着に向けた教員・生徒の意識の向上が個々の学力定着につながっている。	約7割の生徒が目標を達成できた。	3	1・2年生の段階で基礎学力の定着を図りたい。
		・英語教育の充実	・本校での英語活動を通して興味関心を抱かせ、英語力向上だけでなく、積極的に活用できるようにする。	オンライン英会話やALTの授業、パフォーマンステストを授業で含めることで、会話への積極性が身につくようになる。	オンライン英会話、ALTの授業、パフォーマンステストを実施することで、積極的に英語を活用・運用する環境を構築できた。	2	コロナ禍の影響で学校外での活動が制限される中、別の形での英語活動を充実させたい。
	教員の授業力向上	・授業規律の確立と授業力の向上	・始業や終業のけじめと挨拶を徹底する。 ・ICTの授業を取入れ、アダプティブな対応で生徒の学習効果の向上に努める。	5限目授業に向けた5分前着席が昨年度より定着してきた。また、教員間の授業観察を実施することで、学習意欲を高める授業力向上に努めた。	始業時の着席が昨年度より定着してきた。また、授業観察やオンライン教員研修を実施することで、学習意欲を高める授業力向上に努めた。	3	ICTを活用した授業・学習をさらに充実させていく。
	図書館の利用促進	・読書環境の整備	・良質な読書環境を整備する。 ・図書館を授業、特別活動等で計画的に利用し、生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動の充実を図る。	図書館第一学習室、第二学習室、コモンスを利用した授業・特別活動等が定期的に行われている。コロナ禍のため委員会活動を行うことができていない。	図書整理を行ったため、読書環境の整備は進められた。コロナ禍のため1・2学期はほとんど活動できなかったが、3学期は4号の図書委員会により発行できた。	2	読書・学習環境をより充実できるよう、授業・特別活動・図書委員会を中心に、関連する部署との連携を図りたい。
生徒課	品位ある生徒の育成	・挨拶	・笑顔で挨拶の飛び交う雰囲気づくりを教員から行なう。	挨拶が飛び交う雰囲気はできてきたが、コロナ禍のため積極的な働きかけはしていない。	コロナ禍のため元氣よく挨拶という働きかけはできなかった。	2	教員からの挨拶の徹底を図る。
		・交通マナー、登下校マナーの確立	・交通事故「0」を目指し、正しい登下校マナーを身につけさせる。	自転車同士の接触する交通事故が2件発生した。電車内でのマナーについての苦情が2件あった。	交通事故7件(昨年度4件)発生。苦情4件(昨年度4件)発生。	3	交通安全講話等、規範意識を高めるとともに見回り指導の実践。
	生徒会活動の活性化	・生徒主体の活動	・生徒会活動や学校行事などが、生徒主体で企画、立案、実行できる手助けをする。	コロナ禍のため、学校行事が縮小となり、生徒主体で実施はしていない。	コロナ禍で学校行事が縮小しての実施になり、生徒主体とまではいかなかった。	2	教員主体からの脱却を図り、生徒主体の行事に移行する。
		・部活動の見直し	・既存の部活動を抜本的に見直す。 ・3年間精励した生徒、貢献した生徒に対して卒業時に顕彰する。 ・ボランティア、演奏会など、地域への活動範囲を広げる。	男女共学に向けて部活動の見直しを行っている最中である。コロナ禍のため、大会、演奏会などの多くが中止となった。	男女共学化、時代背景に鑑み、部活動の見直しに着手することはできた。3年間精励生徒表彰は実施できなかった。	2	大会結果だけでなく、清掃活動、ボランティア活動等、地域への貢献を図る。
	健康管理の徹底	・心身の健康意識の向上	・定期的保健だよりを配付し、生徒や保護者に情報提供と協力を得る。 ・相談室開室日を定期的に知らせ、相談による心の安定した日常につなげる。	9月と10月は、健康診断と実習生対応の為、発行する余裕がなかった。スクールカウンセラーと連携し、開室日や予約をプリントや掲示板で随時通知し、複数生徒の継続利用につながった。	保健だよりは、季節の健康課題に加え、常にコロナ予防を掲載し、予防対策を実施した。相談室は休校解除後から予約が常にあり、コロナ禍の生徒の不安に対応連携ができた。	3	コロナ禍による新しい生活様式の定着に努め、スクールカウンセラー、学校医等との連携を充実させ、健康管理の促進を図る。
進路課	妥協のない進路選択	・進路行事の連携と意識づけ	・継続的かつ明確な目的を持った指導により、3年間の熟慮の結果として進路選択をさせる。	コロナ禍のため、例年のような進路行事が行えないなか、Web配信など新しいことにチャレンジ中である。	Webも使いながら進路指導をしてきたつもりであったが、コロナによる休校の期間も長く、進路課が先頭に立った進路指導ができたとは言えないと感じている。	2	進路課員に定期的に研修を受けてもらい、学科の中で中心となって進路指導をしてもらえるような体制を作る。
		・入試制度改革への対応と多様な入試の活用	・進路検討委員会を定期的に行い、入試制度改革への対応策を研究する。また、難関大学合格へ向けた糸口を探したり、取得した資格を活かした入試方法を提案したりする。	総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜と入試のラインナップが今年度から変更になったことに対して、それぞれの特性を見極め、柔軟に対応している。	早めに出願させるべき学校と、共通テストや一般選抜まで粘らせるべき学校を見極め、コロナ禍と新入試の混乱の一年だったが、何とか例年以上の実績を残すことができた。	3	新入試はまだ移行期間だと考えている。引き続き情報収集と研究を行い、生徒の可能性を引き出すよう進路指導の研究を続ける必要がある。
		・就職試験対策の強化	・就職試験対策の補習により基礎学力の定着を図る。また、面接試験において加点となるような面接指導を実施し、全員が第一志望の企業に合格できるようにする。	コロナ禍のため、Classiを活用し、授業後に集団面接・個人面談を実施した。LT・探究の時間に、一括して就職補習を実施した。就職ガイダンスや企業説明会、ZOOMを使用したオンライン企業説明会を実施した。	コロナ禍で厳しい戦いとなったが、年内に希望者全員の内定を決めることができた。一方で、短期集中的な指導についてこれない生徒が不合格となり、進学へ切り替えた。	3	早期に就職意識を高めるために、2年生の個人面談時に就職面談や企業説明会への参加を促す。3年生1学期に本年度同様、就職面談と就職面接を実施する。
広報課	情報発信と広報行事の充実	・ホームページや学校案内、広報行事を通して本校の魅力を発信	・ホームページや学校案内等、さらに見やすく魅力的なものにしていく。 ・オープンスクール、入試説明会等のPRを強化し、参加者増をめざす。	ホームページ画面を見やすいように整理・改善を行った。Webオープンスクールの動画配信、オープンスクール等のWeb申し込みを開始した。	コロナ禍の影響もあり、益々Webでの広告活動が加速する中、Webオープンスクールや見学会等のWeb申込、Web入試出願を取り入れ、ホームページの閲覧者が増えた点は良かった。	3	ホームページ画面のさらなる改善、修文学院高等学校の新ホームページの構築で、入学者増を目指す。